

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202429		
法人名	社会福祉法人長崎友愛会		
事業所名	グループホームゆうあいホームひだまりの家		
所在地	長崎県佐世保市吉岡町1005-1		
自己評価作成日	令和5年10月30日	評価結果市町村受理日	令和5年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年11月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和4年7月1日より大野町から吉岡町へ施設が移転し、新しい地域での生活にもようやく慣れてきました。大野町では地域の皆様のおかげで地域密着型としての活動が充実しており、たくさんの経験を活かし新しい地域でも地域の方に愛されるようなひだまりの家を目指し頑張っています。移転以降、町内の活動や行事、施設での行事に地域の方も参加していただく等、少しずつ地域との関係の構築が出来ていると感じています。コロナ禍で様々な活動が制限されていましたが、ひだまりの家では『コロナ禍の中でも利用者様に出来る事はないか?』と考え、外出支援や施設内での行事等工夫し実践しています。感染症対策を実施しながら、利用者様が楽しく生活していただけるようにこれからも職員一同力を合わせ頑張っていきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和4年7月、ホームを現在地へ移設したことに伴い、新たな地域での貢献活動に向け、町内会役員、地域包括支援センターからの協力を得ながらサロン活動や地区高齢者への買物支援等、取り組まれている。介護支援ロボットを導入し、入居者の立上りや歩行・移動時における職員の負担軽減を実現し、職員採用面でもそのメリットを活かすことができている。入居者、家族、職員間の関係性も良好で、家庭的な雰囲気の下でコミュニケーションも取れ、職員も入居者と一緒に楽しみながら支援している。ホームが以前の場所から移転したことで地すべりの危険が解消し、心理的負担も解決すると共に職員用の休憩室も完備したことで職場環境も整備している。周辺は田園風景と住宅街及び学校施設に囲まれた落ち着いた場所、駐車スペースも確保し、家族が訪問しやすい立地である。現在、管理者は次の担い手の育成を課題と捉え、チームワークの下職員育成に努めている。積極的に地域に密着して取り組む姿勢から今後も更なる地域との共生が楽しみなホームと言える。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「もっと優しく、もっと温かく」を毎朝の申し送りの際に唱和するとともに、事業所の理念である「思いやりの言葉、笑顔のケア、心地よいひだまり」の実践に取り組んでいる。	法人の理念である「もっと優しく、もっと温かく」を毎朝の申し送りの際に唱和するとともに、事業所の理念である「思いやりの言葉、笑顔のケア、心地よいひだまり」の実践に取り組んでいる。	職員は朝礼時に理念を唱和し、共有している。日々の支援の中で管理者が気づいた点等はタイミングを見て職員へ説明すると共に職員会議時にも方針を話し合い方向性の統一を図っている。理念に沿って年度ごとに個人目標を設定し、自己評価後には管理者と面談して振り返りを行い、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新しい地域に施設が引っ越しをし、週1回の地域活動の参加、地域行事・ホームでの行事に参加をし合う等の取り組みを実施しています。また、12月からは地域の高齢者を対象とした買物支援サービスも実施する予定です。	新しい地域に施設が引っ越しをし、週1回の地域活動の参加、地域行事・ホームでの行事に参加をし合う等の取り組みを実施しています。また、12月からは地域の高齢者を対象とした買物支援サービスも実施する予定です。	ホームは開設と同時に町内会に加入している。地域の消防団から団員として参加してほしい旨の協力要請を受ける等交流を図っている。交通手段が無かったり、独居といった諸事情により買物に不便な地域に住む高齢者を対象に買物支援を町内の民生委員やボランティアと連携し、取り組めるよう検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの状況に合わせて運営推進会議は書面会議と対面での会議を使い分け、地域の方と意見交換を行っている。	コロナの状況に合わせて運営推進会議は書面会議と対面での会議を使い分け、地域の方と意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見等をホーム会議等を利用し職員で共有するようにしている。	運営推進会議で出た意見等をホーム会議等を利用し職員で共有するようにしている。	運営推進会議には、行政職員、地域住民、入居者、家族代表のほか、知見者として近隣のグループホーム管理者の参加もあり、情報交換等を行っている。各メンバーから出された質疑は議事録に残している。尚、質疑に対するホームの回答記録が無かった為、今後、ホームの回答内容も残しておくことが望ましい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場に、地域包括センターの方に参加していただき、情報交換、意見交換を行っている。また、電話やメールにも意見交換を行っている。	運営推進会議の場に、地域包括センターの方に参加していただき、情報交換、意見交換を行っている。また、電話やメールにも意見交換を行っている。	保健所よりコロナ感染症対策時にアドバイスを受ける等協力関係を築くようにしている。市の長寿社会課ともメールやFAXのやり取りがあり情報交換を行っている。地域包括支援センターとは町内主催のいきいきサロンを介し介護保険の説明に職員が出向く等連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を基本としているが、利用者様の安全確保の為やむを得ない場合はその都度、家族への了承を頂いている。	身体拘束をしない事を基本としているが、利用者様の安全確保の為やむを得ない場合はその都度、家族への了承を頂いている。	母体法人の身体拘束適正化委員会にホーム職員が参加した後、ホーム会議にて同委員会の報告を行い職員間で共有している。身体拘束禁止対応規程を作成し、入居時に家族及び本人に説明している。高齢者虐待防止の取り組みに関し重要事項説明書に明記し、現在、運営規程へ記載するよう法人全体として手続きを進めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	eケアラボを使った研修や、法人内内部研修を実施している。また、入浴・更衣介助の際に傷やアザ等が無いチェックを行うように心掛けている。	eケアラボを使った研修や、法人内内部研修を実施している。また、入浴・更衣介助の際に傷やアザ等が無いチェックを行うように心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加や、勉強会などを通じてホーム内で情報の共有を行っている。	研修の参加や、勉強会などを通じてホーム内で情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当事業所のパンフレットを作成し、入居時や面談の際に、それらを利用し詳しい説明を行っている。また、法人のホームページで事業所の紹介動画を載せており、事業所の様子がかかるよう工夫している。	当事業所のパンフレットを作成し、入居時や面談の際に、それらを利用し詳しい説明を行っている。また、法人のホームページで事業所の紹介動画を載せており、事業所の様子がかかるよう工夫している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活からでた利用者の意見を会議の際に職員で共有し、改善に努めている。また、面会や電話の際に家族より要望があった際は管理者と対応した職員が中心となり対応し、職員で情報共有するよう努めている。	日々の生活からでた利用者の意見を会議の際に職員で共有し、改善に努めている。また、面会や電話の際に家族より要望があった際は管理者と対応した職員が中心となり対応し、職員で情報共有するよう努めている。	担当職員を中心に入居者から意見、意向を把握し、生活全般の状況を家族へ伝えている。支援に必要な情報は医療に関する事項、生活に関する事項に色分けし、申送りノートに残している。アクシデント等で緊急性が高い事案はホームのライングループを使い職員間で共有している。	入居時における重要事項の説明として、第三者(外部)評価受審状況を行うことが求められており、重要事項説明書において第三者(外部)評価の受審状況が分かるように、第三者(外部)評価実施の有無、評価実施日、評価機関名、評価結果の開示状況を記載するとともに、説明時には評価受審に合わせて家族アンケートを実施する旨を伝え、家族の意見をくみ取る機会となることを説明して運営に活かすことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の代表者会議の場にて意見交換を行っている。会議の内容報告・伝達事項はホーム会議にて職員へ報告している。	月に一度の代表者会議の場にて意見交換を行っている。会議の内容報告・伝達事項はホーム会議にて職員へ報告している。	ホーム会議の議事録はファイリングし、所定の場所に置き保存している。尚、会議を欠席した職員は、後日閲覧しているが、サイン等の確認は行われていない。ホームにはハラスメント対応マニュアルを作成し、相談窓口をホーム長としている。人事考課を年2回実施し、職員の意見や意向を確認して職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課表を各職員で記載しその中で今後の目標や反省点を掲げている。	年に2回の人事考課表を各職員で記載しその中で今後の目標や反省点を掲げている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務が研修と重なった場合には勤務交代を工夫している。また、研修内容を持ち帰り、内容を共有するようにしている。研修参加後はレポートの提出をしていただき、振り返りが出来るよう実施している。	勤務が研修と重なった場合には勤務交代を工夫している。また、研修内容を持ち帰り、内容を共有するようにしている。研修参加後はレポートの提出をしていただき、振り返りが出来るよう実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	対面での研修が増えてきていますので、コロナの様子えお見ながら可能な限り参加するように努めている。	対面での研修が増えてきていますので、コロナの様子えお見ながら可能な限り参加するように努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化による利用者の不安を払拭するため、積極的なコミュニケーションを心掛けている。また、ご家族とも情報共有をし快適な生活が出来るよう努めている。	環境の変化による利用者の不安を払拭するため、積極的なコミュニケーションを心掛けている。また、ご家族とも情報共有をし快適な生活が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来設時に、要望を家族へ尋ね、それを介護へと取り入れることで、家族の悩みや不安を解消できるように心掛けている。また、面会時や電話にて利用者の近況報告を行うことで、情報の共有を図っている。	来設時に、要望を家族へ尋ね、それを介護へと取り入れることで、家族の悩みや不安を解消できるように心掛けている。また、面会時や電話にて利用者の近況報告を行うことで、情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族との会話から考える最適な支援を見極め、応えることができる様に心掛けている。	利用者、家族との会話から考える最適な支援を見極め、応えることができる様に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は対等な立場であり、利用者の自己決定を尊重し、その人らしい暮らしの確立を築き上げている。	職員と利用者は対等な立場であり、利用者の自己決定を尊重し、その人らしい暮らしの確立を築き上げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、ご家族の行事参加は見合わせいたが令和6年よりご家族の行事参加を実施予定です。ご家族には2ヶ月に1回発行しているホーム便りにて日頃の様子がわかるよう実施している。	コロナ禍の為、ご家族の行事参加は見合わせいたが令和6年よりご家族の行事参加を実施予定です。ご家族には2ヶ月に1回発行しているホーム便りにて日頃の様子がわかるよう実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族や利用者本人から情報を収集し、外出支援等を利用し出来る限りお連れできる様にしている。また、昔からの馴染みの方は、ご家族に確認のもと面会等実施している。	ご家族や利用者本人から情報を収集し、外出支援等を利用し出来る限りお連れできる様にしている。また、昔からの馴染みの方は、ご家族に確認のもと面会等実施している。	家族からの情報を得て馴染みの場所へ行ったり、地域主催のいきいきサロンへ入居者と共に参加するなど、入居者の友人、知人を把握して継続して交流できるよう支援に努めている。入居者の希望に応じて、入居者本人の親族の協力の下、長崎市へ墓参りに出掛ける等、取り組んでいる事例が確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等を通じて、利用者同士の交流を深める機会を提供している。コミュニケーションが苦手な利用者に関しては、個別レクリエーションや職員が間に入って交流を行うなど一人一人に合ったケアを行っている。	レクリエーション等を通じて、利用者同士の交流を深める機会を提供している。コミュニケーションが苦手な利用者に関しては、個別レクリエーションや職員が間に入って交流を行うなど一人一人に合ったケアを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も可能であれば面会へ行くなど、何らかの関係を保つようにしている。また、ご家族のアフターフォローも実施し相談しやすい環境作りに努めている。	契約終了後も可能であれば面会へ行くなど、何らかの関係を保つようにしている。また、ご家族のアフターフォローも実施し相談しやすい環境作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で会話やコミュニケーションの中で利用者の要望や想いをくみ取れるよう職員で共有し実践している。	日常の中で会話やコミュニケーションの中で利用者の要望や想いをくみ取れるよう職員で共有し実践している。	職員は入居者との日頃のかかわりの中で思いを汲み取るよう努めている。職員が支援の中で気づいた事項は送りやノート等で記録に残して共有し、本人の要望が実現可能か職員会議等を通じて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される事前に面談を行い、これまでの状況を把握するように努め、記録と口頭による情報の共有を行っている。	入居される事前に面談を行い、これまでの状況を把握するように努め、記録と口頭による情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、生活状況や心身状態等を記録に残しカンファレンスの際に、近況報告を行っている。	毎月、生活状況や心身状態等を記録に残しカンファレンスの際に、近況報告を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの要望と合わせて、カンファレンス会議にて担当職員からの近況報告のもとケアプランの実践と見直しをケアマネジャーを中心に行っている。	本人、家族からの要望と合わせて、カンファレンス会議にて担当職員からの近況報告のもとケアプランの実践と見直しをケアマネジャーを中心に行っている。	介護計画の見直しは6ヶ月毎を基本に行っており、本人の状態変化に応じ随時見直しを行っている。保佐人による同意実績、後見制度の活用も行っている。介護計画のサービス内容はケース記録に記載し、日々の支援に活かすよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をもとに毎月生活状況を要約したものを情報共有し定期的に見直している。	個別記録をもとに毎月生活状況を要約したものを情報共有し定期的に見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望に応えられるよう、職員間で情報共有し臨機応変な対応が出来るよう取り組んでいる。	利用者の要望に応えられるよう、職員間で情報共有し臨機応変な対応が出来るよう取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「コロナだから」で終わらせるのではなくコロナ禍でも可能な外出支援や地域交流等の取り組みを工夫し実践している	「コロナだから」で終わらせるのではなくコロナ禍でも可能な外出支援や地域交流等の取り組みを工夫し実践している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関に関しては、定期的な往診や口腔ケアをお願いしている。他科受診に関しては出来る限り家族での対応をお願いしている。	協力医療機関に関しては、定期的な往診や口腔ケアをお願いしている。他科受診に関しては出来る限り家族での対応をお願いしている。	入居以前のかかりつけ医を継続して受診する場合や、皮膚科、眼科などの専門医を受診する場合は家族が受診に同行することを基本としている。尚、本人や家族の状況に応じて職員が同行する場合もある。ホームの協力医からは毎月2回訪問診療があり、歯科医による往診も随時行われている。家族が受診に同行する場合は医療への伝達用書類を渡し円滑な受診に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人が契約する訪問看護事業者が1回/週健康チェックを行い、職員へのアドバイスを行える体制を確立している。また、特変があった際には協力医への報告を行っている。	法人が契約する訪問看護事業者が1回/週健康チェックを行い、職員へのアドバイスを行える体制を確立している。また、特変があった際には協力医への報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院のソーシャルワーカーや看護師と連携を取り、情報の共有や状態確認を密に行っている。ご家族にも定期的に状態報告し、早期退院に向けた調整を行えるよう実践している。	病院のソーシャルワーカーや看護師と連携を取り、情報の共有や状態確認を密に行っている。ご家族にも定期的に状態報告し、早期退院に向けた調整を行えるよう実践している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を入居時に説明、必要な状態の際には主治医を交えた対談を行い、方針を決めるようにしている。(今年度看取り実績なし)	看取りの指針を入居時に説明、必要な状態の際には主治医を交えた対談を行い、方針を決めるようにしている。(今年度看取り実績なし)	入居契約時に看取り指針を基に終末期の対応を説明している。本人の状況変化に応じ、随時家族へ意思確認を行い、看取り期の最終確認時は医師の同席の下家族より同意書を取得している。ホーム移転前には訪問看護事業所と連携したエンゼルケアを実施しており、今後もエンゼルケアを継続していく意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署へ消防避難訓練の際、心肺蘇生法やAEDの操作方法を依頼し訓練を受けた。	消防署へ消防避難訓練の際、心肺蘇生法やAEDの操作方法を依頼し訓練を受けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	コロナ禍の為、今年度は地域の方の参加はお断りしているが、避難の際の役割分担を明確にし対応出来るよう取り組んでいる。	夜間・日中を想定とした消防避難訓練を実施している。今後は自然災害を想定した避難訓練を実施予定。その際には地域の協力も頼み、実際の避難所への誘導も実践したいと考えている。	日中、夜間帯を想定し、消防署、防災点検業者立会いの下で定期的に避難訓練を行っている。3日分の備蓄品を1階倉庫に確保している。避難用梯子を設置しているが、使用方法について不安がある。緊急対応の手順はフローチャート形式で作成し掲示している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい言葉かけや丁寧な対応を職員一同心がけ、日頃のケアやコミュニケーションの際に実践するようにしている。	優しい言葉かけや丁寧な対応を職員一同心がけ、日頃のケアやコミュニケーションの際に実践するようにしている。	法人全体で年度目標の一つに接遇を重点項目として、入居者目線、言葉遣い等の配慮、職員間の円滑なコミュニケーションを掲げている。定期的な研修及び管理者による職員の個人面談を通じ、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話等で出た要望(買い物、外出等)に可能な限り応えるようにしている。	利用者との会話等で出た要望(買い物、外出等)に可能な限り応えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、消灯時間、入浴時間は可能な限り本人の希望に沿うように心がけ、個人の時間を大切にしている。	食事時間、消灯時間、入浴時間は可能な限り本人の希望に沿うように心がけ、個人の時間を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目には衣替えを行い、季節感をかんじていただき、希望者には、衣類の購入や訪問理容を利用するなどしている。	季節の変わり目には衣替えを行い、季節感をかんじていただき、希望者には、衣類の購入や訪問理容を利用するなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専門の職員を配置することで、手作り料理を毎日提供できている。また、利用者の要望に合った食事を提供するように心掛けている。行事やイベントの際には弁当を外注し、いつもとは違った食事を楽しんでいただいている。	調理専門の職員を配置することで、手作り料理を毎日提供できている。また、利用者の要望に合った食事を提供するように心掛けている。行事やイベントの際には弁当を外注し、いつもとは違った食事を楽しんでいただいている。	日々の献立、食材購入は調理担当職員が行い、検食担当職員が記入した検食簿を基に給食会議を行っている。食事形態、アレルギー、水分制限等については厨房内の目につく位置に貼り出している。行事食を提供したり、コロナの第5類移行に伴い外食の機会を設けるなど食事を楽しめるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせた食事(お粥、刻み食など)を工夫し支援を行っている。夏場は水分補給の回数を増やし脱水症状対策も行っている。	利用者の状態に合わせた食事(お粥、刻み食など)を工夫し支援を行っている。夏場は水分補給の回数を増やし脱水症状対策も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄を定期的に行っている。協力医療機関に口腔ケアを行ってもらい、清潔保持に努めている。	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄を定期的に行っている。協力医療機関に口腔ケアを行ってもらい、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。	日中は自立及び一部手引き誘導でトイレでの排泄支援が行われている。夜間帯は3時間毎に見守りし、状況に応じてパッド交換を行う等支援している。夜間のみポータブルトイレを使用する方に目隠し用のカバー使用を検討するも不穩が見られたため好天時に天日干しを行い清潔が保持できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握し、必要であれば主治医の指示のもと、下剤等を利用して排泄コントロールを行っている。また、水分補給の際に個々の状態に応じた工夫を行っている。	排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握し、必要であれば主治医の指示のもと、下剤等を利用して排泄コントロールを行っている。また、水分補給の際に個々の状態に応じた工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の状態や希望に合わせて、利用者本人と相談しながら、入浴して頂けるよう支援している。入浴拒否があった際は時間・日にちをずらし再度言葉かけする等の工夫を行っている。	利用者の状態や希望に合わせて、利用者本人と相談しながら、入浴して頂けるよう支援している。入浴拒否があった際は時間・日にちをずらし再度言葉かけする等の工夫を行っている。	毎日入浴することが可能で、基本的に1日当たり3名の入居者が浴槽に浸かり入浴を楽しんでいる。脱衣所にエアコンを設置し、浴室との温度差を調整してヒートショック対策を講じている。脱水対策として入居者へ適宜水分補給を行っている。入浴順を調整したりマット交換を行うなど皮膚疾患等に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息が必要な方は居室にて休んでいただけるよう、言葉かけや居室の温度管理・寝具の調整など気配りを心掛けている。	休息が必要な方は居室にて休んでいただけるよう、言葉かけや居室の温度管理・寝具の調整など気配りを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐため、当法人の服薬マニュアルのもと、服薬支援を行うとともに、服薬チェック表を活用し確認を行っている。	誤薬を防ぐため、当法人の服薬マニュアルのもと、服薬支援を行うとともに、服薬チェック表を活用し確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体でのレクリエーションだけでなく個別のレクリエーション(塗り絵、トランプ、パズルなど)、近所の散歩やドライブを行い、利用者の気分転換が行えるよう支援している。	全体でのレクリエーションだけでなく個別のレクリエーション(塗り絵、トランプ、パズルなど)、近所の散歩やドライブを行い、利用者の気分転換が行えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの状況に注意しながら動物園やドライブ、地域の公民館での活動参加等、可能な範囲で実践出来た。	コロナの状況に注意しながら動物園やドライブ、地域の公民館での活動参加等、可能な範囲で実践出来た。	好天時にホーム周辺を散歩したり、家族も参加可能な近隣行楽地へのドライブを行っている。リビングには地域の行事予定表を掲示し外出を企画するなど、外出する機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際には、多少の現金を持っていただき、買い物を楽しんで頂けるよう支援を行っている。	外出の際には、多少の現金を持っていただき、買い物を楽しんで頂けるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合には、常識的な回数、時間にて利用していただいている。	希望がある場合には、常識的な回数、時間にて利用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室などのドアに利用者が混乱しないよう目印を設置している。	トイレ、浴室などのドアに利用者が混乱しないよう目印を設置している。	共用空間には近隣の幼稚園児がホームの敬老会に訪れた際に園児からいただいた貼り絵を掲示するなどのほか、U字型のテーブル、ソファ等があり入居者は穏やかに過ごされている。各居室のドアに一接触一除菌と貼紙し、職員へ感染予防の再認識を図っている。空気清浄機を設置し、窓の開閉を行い換気を行っている。夕方以降に床、居室を運出職員が清掃し、清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: )	実践状況(ユニット名: )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で食事ができるよう席順を考慮したり、フロアにソファを設置し、利用者同士の語らいの場を提供している。	気の合う利用者同士で食事ができるよう席順を考慮したり、フロアにソファを設置し、利用者同士の語らいの場を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を配置し、心地よい居室となるよう工夫している。	使い慣れた家具等を配置し、心地よい居室となるよう工夫している。	居室はホームによりタンス、ベッド、エアコンを整備している。火気類、危険物以外の希望する物品の持込みが可能である。居室の備品等を移動する場合は、介護の動線の配慮、家族への説明と了承の下で実施している。居室は職員による清掃及び室温湿度を管理しており入居者が居心地よく暮らせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所やトイレなどの場所がわかりやすいよう工夫している。	洗面所やトイレなどの場所がわかりやすいよう工夫している。		